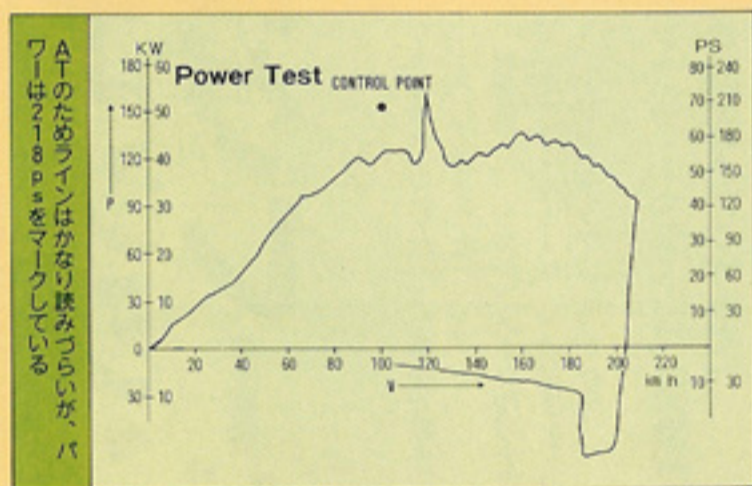




ノーマルのポテンシャルが高い だけにチューニングも楽ししみ大

MAX SPEED
176.730km/h
リミッター作動

STEP1
MAX SPEED 224.719km/h



ATのためラインはかなり読みづらいが、パワーは218PSをマークしている

初代ソアラは2・8リッター・ツインカム5M-G、さらに3リッターの6M-Gと常に国産最強のエンジンを搭載してきたが、第2世代の現行モデルは今まで以上に強力な3リッター・4バルブツインカム、しかもターボインタークーラーでネット230PS/5600rpm、33・0kgm/4000rpmと群を抜いたパワー&トルクを誇っている。スタイルも、初代のイメージは踏襲しているものの、より洗練されており、今や押しも押されぬ存在となった。

このエンジンスベックが走り出すとモノをいうのは言うまでもなく、3リッターのキャバシテイからのパワフルさと、4バルブ・ツインカムのシャープで軽快な吹け、そしてターボによる加速感が三味一体となってダントツの速さを見せてくれるのだ。

といっても、スピードリミッターが装着されたままではこれをフルに生かすことは出来ない。

解ってはいないがこの状態でのマキシマムスピードのチェックを行なった。結果はリッターカークラスでもマークできる176・730km/h。3リッター・ツインカムターボの名がスタるものだ。

そこで、その名に恥ない性能を発揮させるためには、無用の長物ともいえるスピードリミッターのカットが何よりも効果的。これが生きている限りどんなチューニングを施したとしても、この時点でアクセルを踏み、マキシマムスピードを求める意味がないからだ。

リミッター作動時より 600rpmも多く回った!

そしてカットしてやることによって224・719km/hを得るに至った。フルノーマルから較べれば約50km/hものアップになった。

リミッターは、4速/4400rpmで作動し、さらに走ろうとする7M-GTとドライバの意欲に水を差したが、カットした後は、その4400rpmを迎えてもエンジンの回転は伸びる。計測ポイントではタコメーターのバーは5000rpmであることを知らせていた。

さて、ネットで230PS、国産最強のパワーは、実際の走行状態により近いシャーシダイナモによる駆動輪での測定で218PSをマーク。シャーシダイナモでも最強といえるものだ。

しかもトランスミッションは4速オートマチックなのだから大したものとしたか

言いようがない。ほんの少し前、チューニングされたエンジンで220km/hオーバーを達成するにはかなりのレベルといわれたものだが、ノーマル車でこれをマークできてしまったのだ。

爆発的な加速は、ノーマルカーでは望めなく、この7M-Gもこのことが言えるが、とにかく強力な走りであることは事実。

それに、純正のターボ車が増え、それにつれてチューニングのレベルも日進月歩の勢いだ。ノーマルよりも容量の大きいタービンや、インタークーラーなどを与えてやった時の愛護ぶりは、想像しただけでもワクワクしてしまいたい。元々遅いクルマを速くしていくのもチューニングの楽しみ方のひとつだが、これだけのポテンシャルの7M-GT。ソアラは女の子を魅きつける道具ではないところを何より証明してくれるはず。

3度のメシより速いクルマが好きなボクたちにとってこのパワーユニットは欠かせないのだ。

チューニング ポイント

7M-GTを最大限に生かしたいのなら、まずはS.L.Dからだ。220km/hオーバーが可能になる

●S.L.D(スピードリミット
ディフェンサー)

●チューニングパーツプライス●

①S.L.D.....1万2800円
合計 1万2800円

